

## 第 26 回 三重河川流域委員会 議事要旨

日時：令和 5 年 10 月 26 日（木）10:00～12:20

場所：三重河川国道事務所 3F 災害対策室

### 1. 開会

### 2. 挨拶

### 3. 議事

#### (1) 三重河川流域委員会での事業評価の審議予定

- 事務局案にて了承された。

#### (2) 宮川直轄河川改修事業の再評価（原案）

- 事業費が増額した主な原因として、地中の状態が想定できなかつたとの話だが、地中の情報についてどのように蓄積し、今後の工事に反映していくのか。

→3D管内図作成の取り組み等で地質調査や過去の構造物等に関するデータの蓄積状況を効率的に閲覧可能としたい。維持管理の効率化も視野に進めていく。

- 国だけでなく、県や市とも連携して進めて欲しい。

- 残事業は現時点における途中段階の整備効果を示しているが、途中段階の整備の浸水範囲について、段階的に減少していくような示し方はしていないのか。

→段階的な整備については、水害リスクマップにより確率規模毎に短期・中期・中長期と河川の進捗状況に応じた浸水解消範囲を公表しているが、費用対効果分析までは公表していない。

- コスト縮減効果はどの程度か。

→矢板護岸を通常より幅の広いものを使用し、打ち込み枚数を減らすことで数千万円程度の縮減が見込まれる。ICT 施工による効率化により 1 工事あたり数十万円程度のコスト縮減を図っている。

- 宮川直轄河川改修事業について、対応方針（原案）のとおり事業継続を了承された。

#### (3) 宮川総合水系環境整備事業の再評価（原案）

- 昼田・玉城地区に整備予定の船着き場とはどういったものか。

→ワークショップ等を開催し、地域住民の意見を取り入れながら検討した内容で、水

辺に親しむことを趣旨としたカヌー等のレクリエーション利用を想定している。

- 昼田・玉城地区のせせらぎ水路では、近隣の水産技術研究所の水を流しているが、環境調査の結果、ドジョウとメダカが確認されたのか。また、底生生物は調査しているのか。  
→調査の結果、魚類については毎年増加していることが確認されている。底生生物は調査していない。
- 20年ほど前の生物調査では淡水性二枚貝類も確認されていた。今後は、魚類以外にも底生生物等も調査されることが望ましい。
- 便益のアンケート調査は昼田地区のみを対象としているのか。アンケートの結果、前回より支払い意思額が上がったということか。  
→事業実施箇所を中心に半径5km以内の区域を対象としている。前回より支払い意思額は上がっている。
- 宮川・勢田川地区の残事業はあるのか。  
→平成26年度に完了しており、残事業はない。
- 宮川総合水系環境整備事業について、対応方針（原案）のとおり事業継続を了承された。

#### (4) 櫛田川総合水系環境整備事業の再評価（原案）

- 氾濫原・湿地環境再生に関して、整備計画における位置づけはどうか。  
→河川整備計画では河川環境の整備と保全に関する事項として「多様な生物の生息・生育の場となっている河畔林や湿地の保全に努める。」や「アユの産卵場となる瀬・淵など変化に富んだ河川環境の保全に努める」とあり、整備計画の方針に従い櫛田川自然再生推進会議にて具体的な整備箇所及び整備内容を位置付けたものである。
- 工事に着手する前に魚類以外にも昆虫類・鳥類・植生を含めた適切な環境調査を行っていただきたい。モニタリングの頻度と実施主体はどのような考えか。  
→河川水辺の国勢調査とは別に工事着手前に調査予定である。事業実施後のモニタリングも含めて国交省が調査を実施する。
- 櫛田川総合水系環境整備事業について、対応方針（原案）のとおり事業継続を了承された。

(5) 宮川水系河川整備計画の点検

(6) 鈴鹿川、雲出川、櫛田川水系河川整備計画の点検（事業進捗状況の報告）

- 樹木伐採が行われているが、伐採後は更地になるのか。  
→流下能力確保のため、除根まで行き再繁茂の防止に努める。
- 環境への影響について河川改修実施箇所での変遷や、環境配慮に関する方針を示してほしい。  
→近年、河道の土砂堆積及び樹林化が課題であり、流下能力確保のため、河道掘削や樹木伐採に取り組んでいる。引き続き、良好な水辺環境にも配慮しながら治水と環境の両立を図るよう事業を進めてまいりたい。
- 宮川水系では、陸上昆虫と底生動物で種数が増加しているが、環境 DNA 分析等で調査精度が向上したためだと考えられる。CPUE（単位努力量当たり採取量）を示した方がいい。  
→ご意見を参考にし、今後検討してまいりたい。
- 河道掘削について、他河川では土器の出土報告がある。三重県では報告例がないので、今後、河道掘削をされる場合は、注視されたい。  
→ご意見を参考にさせていただきたい。
- 鈴鹿川では河川の伏流傾向が強いが、正常流量は定まっているのか。  
→正常流量の設定については、伏流水をどう評価するかも含めて検討中である。
- 鈴鹿川は伏流水が特に多い河川なので、伏流水の利用についても考慮してほしい。
- 宮川、鈴鹿川、雲出川、櫛田川水系の河川整備計画は、引き続き現行の整備計画の進捗を図ることです承された。

#### 4. 話題提供

(1) 最近の河川事業を取り巻く話題

#### 5. 閉会

以上